

【1. 小規模ソフトウェア開発組織のプロセス標準化の課題とアプローチ】

伏屋 諭（ソフデラ）

追加質問可（2012-12-20 まで）

概要：

国際的に見て、ソフトウェア開発のかなりの部分が多数の中小零細企業によって扱われている。しかし、彼らのほとんどはソフトウェアエンジニアリングの重要性を理解していない。そこで、彼らに役立つための標準として ISO/IEC 29110 シリーズを整備中（一部は発行済み）である。彼ら自身のプロセスをこの標準によって自ら改善できるようにするには、彼らにその重要性とメリットを自覚させる必要があるが、そのための人材や普及方法に課題がある。

Q. S L C P の略歴のところで ISO/IEC TR24748 はプロセス規格の利用ガイドだということだが、これに相当する日本の規格はないのか？

A. ない。日本では「共通フレーム」という経済産業省も推薦する書籍があって、プロセス規格の利用ガイドと言う意味ではそれを使えばいいという雰囲気になっている。

*S L C P: Software Life Cycle Process

*ISO/IEC TR24748: Systems and software engineering - Lifecycle management

Q. それはW T O / T B T 協定に違反することにならないのか？

A. T B T で問題となる強制規格、適合性認証、主要政府調達といったクリティカルな利用法はされていないと思う。

それよりも、米国の任意規格 CMMI が国際的にもデファクトとして通用してしまっている。

また、これらが、一般の人が規格に期待するソフトウェア品質の向上になるかどうかは、別の問題。

*CMMI: Capability Maturity Model Integration

Q. 一般的な標準は、建前として標準があるが使われていない。使われるようにするには普及のさせ方が必要であり、そのアプローチに問題があるのではないか？

A. そのような見方はあるが、現状の活動では建前にもなっていないというつらい部分がある。なかなか振り向いてもらえない。

Q. ソフトウェアのシステムレベル認証はどのように実現されるだろうか？

A. 小規模ソフトウェア開発については、たぶん各国ごとに認証が行われるようになると思う。ドイツのテュフ、スイス・フランスの S G S 等がソフトウェアに関する認証の実施に興味をもっている。ただし、I A F のような認定機関を通じた相互認証の形勢にはない。日本では、いまのところ認証を行っているところはない。

Q. 先進国以外の国についてはどうだろうか？

A. このWG（JTC1/SC7/WG24）のメンバーになっているメキシコ、タイ、ブラジルは真剣に考えているようだ。中国やインドは CMMI をやっている。タイはご存知の通り、日本の自動車産業などとの関わりが大きいし、ISO/IEC 29110 の認証を取る意義があると考えているようだ。I T で経済発展を目指す国の中小企業にとって認証をとることは自らの実力を証明しアピールできるツールとなるかもしれない。